



佐原市長を囲んで（素晴らしいみなさんと職員さんのおかげで有意義な議論が出来ました）

豊橋市第5次総合計画(2011～20年度)の策定で、市民意見を反映させる組織として昨夏発足した計画策定市民会議(会長・岩崎正弥・愛知大学教授、26人)がこのほど、佐原光一市長へ提言書を手渡した。佐原市長は内容をよく勉強して、計画策定に生かしていくま

提言およびアイデアの内容を見ると、まず「環境」では、ごみ袋の有料化、ポイ捨て禁止条例の制定、家庭で

策定する第5次総合計画に反映させる市民の意見を検討する市議論でまとめた提言書を佐原光一市長に渡した。佐原市長は「今後の厳しい社会情勢を乗り切るためにの知恵をもらつた。内容をよく勉強して生きたい」と感謝の言葉を述べた。

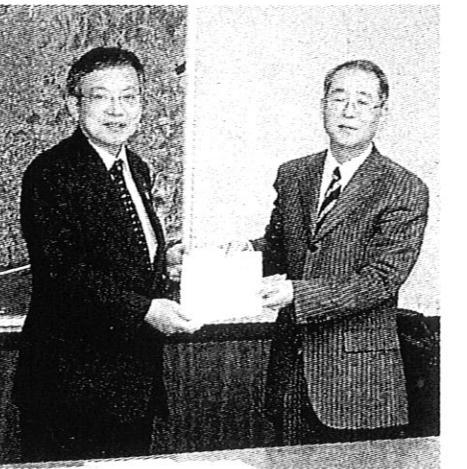
同市民会議は昨年6月に発足、10回の会議を重ねてこのほど各分野ごとに話し合いで提言書をまとめた。

う分科会は当初、3回を予定していたが、「まだ議論が足らない」と全4回に。各委員は予定時間の大幅に超えて熱い議論を交わした。

提言書では、提言をするだけでなく、「私たち1人ひとりができる」という項目を設け、「自

たちで創（つく）る」という意識を持つて活動する覚悟と責任を表した。環境や産業、都市基盤など9つの分野ごとに

①豊橋産農産物直売所を中心市街地に開設②計画中の芸術文化交流施設を見直し、大衆向けの演芸



提言書を受け取る佐原市長(左)

市電延伸や子ども条例

佐原豊橋市長へ

「ともにつくる住まいよいまち豊橋」と副題を付けた同提言書(A4判・24頁)は、環境△産業△都市基盤△子ども・教育△健康・福祉など9章に分け、計73項目の「提言」と「取り組みのアイデア」72項目を列記。各章に「私たち1人ひとりができる」という項目を設け、「にぎわいを再生するため、できるだけ中心市街地に出掛けます」など、市民が果たすべき責任も併記したのが特徴だ。

提言およびアイデアの内容を見ると、まず「環境」では、ごみ袋の有料化、ポイ捨て禁止条例の制定、家庭で

つくられた電力の買いの自治体と連携して小中学生の農業体験授業を行うなど。「都市基盤」では市

のための公共駐車場無料化、空き店舗を活用した小規模老人福祉施設の整備。「子ども・教育」では、子ども機関や大人の責任を明確にするため「子ども条例」を制定するよう提言した。また、県から市が児童相談所を引き継いで、虐待への対応や障がい児に対する支援を、地域一体となって取り組むことが必要とした。

「健康・福祉」では、中学生までの子どもの医療費(通院)無料化、高齢者が運転免許証を自主返納する場合に公共交通機関が乗り放題になるバスを交付する、積極的な健康づくりを進める市民への表彰制度などを挙げた。5次総合計画は、同市民会議の提言などを参考に、7～8月ごろ素案策定。9月にパブリックコメントを募って原案をつくり、市議会12月定期会での承認をめざしている。(藤田彰彦)

市街地に農産物直売所 第5次総へ提言まとまる

豊橋市

施設とする③空き店舗を活用した老人福祉施設や若者との交り活動に補助する条

る第三者機関の設置

ーなどを提言している。(松井俊満)